

## Hidden Figures - Unerkannte Heldinnen

(米、127分、2月2日公開)



あらすじ

1962年2月20日、ソ連と競い合う中、アメリカ合衆国初の宇宙飛行士 John Herschel Glenn Jr. (Glen Powell)は人類の快挙、地球周回軌道の飛行を果たす。その時、まだIBMの大型コンピュータの導入の始まったばかりのNASAを率いるAl Harrison (Kevin Costner)の影で、宇宙船「Friendship 7」の安全な飛行、地球帰還の功績を支えていたのは数学者Katherine Johnson (Taraji P. Henson)と同僚 Dorothy Vaughn (Octavia Spencer)そしてMary Jackson (Soulsängerin Janelle Monáe)を初めとする通称 Rocket-Girlsたち…。



隠れた英雄事実に基づくと言うからさらに目を見張った。

1964年の法改正から差別はなくなったものの、実際は有色人種差別のまだ色濃い1960年代に、その類まれな能力を買われ「Human Computer」という職業名の下、NASAの配下にある研究所の一部門でデータ解析、算出の重要任務に当たっていたアフリカ系アメリカ人女性たちの話である。NASAの敷地の、白人とは別の建物に押し込められ、差別されて当然としつけられてきたゆえ、存在しないも同然の扱いを受けたり虐げられても耐え、粗相して嫌な目に合わないよう気を遣う彼女たち。一方で、数学者として自信に充ち、仕事を持つ女性として生き生きと働き、やがて昇格をも目指す姿がとにかく颯爽として素敵である。主人公を演ずる俳優はもちろん、お久しぶりのKevin CostnerやKirsten Dunstも脇をぎゅっと締め良い感じ。

ちなみにNASAは1940年代から有能なアフリカ系アメリカ人女性たちを算出の業務にあたらせていたそう。

こうした映画にありがちな、まずはアメリカ合衆国が一番である、との匂いはなく、Michelle Obamaさんも有色人種への差別や女性に対する先入観を取り上げた注目すべき大事な一作としている、隠された真の英雄に元気づけられる、お薦めの1本です。

と、今回はここまで。次回作もお楽しみに。